

# 真庭商工会景況調査

年間回顧

平成30年4月～31年3月

真庭商工会

〒719-3214 岡山県真庭市鍋屋6  
Tel0867-42-4325 Fax0867-42-4337

## 目次

1. はじめに	1
2. 主な DI の一年間の推移	2
a) 横ばい圏内で推移した業況判断 DI	2
b) 前後半で波はあるも、横ばいで推移した売上高 DI	3
c) 一貫して上昇、プラス圏定着をうかがう売上単価 DI	4
d) 上昇が続いた仕入単価 DI	5
e) 年度後半に持ち直すも、依然低調な経常利益 DI	6
f) 東瀬戸圏企業経営動向調査との相違点	7
3. 業種別の概況	8
4. おわりに	9

## 1. はじめに

平成 30 年度(平成 30 年 4 月～31 年 3 月)の日本経済は、外需の支えと個人消費の持ち直しが続く中、緩やかな景気回復が続いた。もっとも、相次ぐ自然災害の発生が景気の下押し材料となったうえ、年度後半は輸出や生産の一部に弱い動きがみられ、戦後最長とされる景気拡大は後退局面入りが懸念されている。7 月の西日本豪雨は大きな影響をもたらした、人的被害はもちろん、経済的損失も多く生じたものの、懸命な復旧活動や関係各所の支援等もあって、岡山県全体としては景気回復の動きは途切れることはなかった。

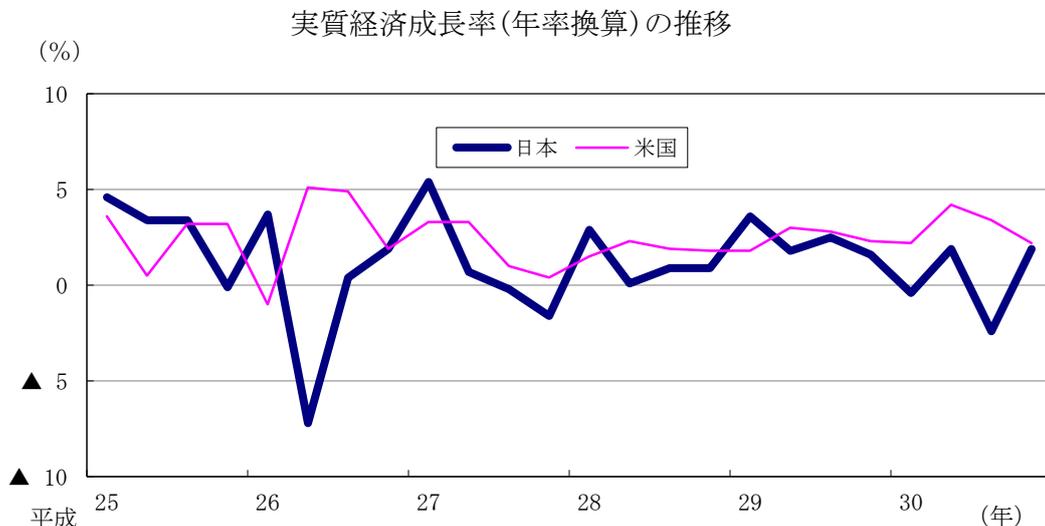
平成 30 年度の真庭地域を振り返ると、西日本豪雨災害は経済的にはプラスに作用した。生産活動の停滞や観光産業における風評被害など一時的なマイナス要因は生じたものの、災害復旧の建設需要が当地域の景気を下支えた。もっとも、復旧工事需要頼みの改善であり、域内の個人消費は依然弱い動きが続くため、景気の基調は横ばい圏内の推移と振り返らざるを得ず、今後の回復への道筋は見通せていない。

当年度の主要 DI をみると、調査開始以降、雇用人員 DI は最大の不足超幅となり、売上単価 DI は最大の上昇超幅となった。雇用人員 DI は▲35.0 (平成 30 年 7～9 月期)、売上単価 DI は 4.0 (31 年 1～3 月期) という値であった。「人手不足」と「値上げの動き」どちらも当地域の景気動向をみるうえで、今後も重視すべき着眼点である。

本稿では、真庭商工会景況調査を、岡山経済研究所が実施している東瀬戸圏企業経営動向調査(以下東瀬戸圏)と比較しながら、1 年間の動きを振り返る。

$BSI = (\text{「増加・上昇・好転等の回答割合」} - \text{「減少・低下・悪化等の回答割合」}) \div 2$   
としているが、本調査と単位を揃えるため、  
 $DI = (\text{「増加・上昇・好転等の回答割合」} - \text{「減少・低下・悪化等の回答割合」})$   
とする。

注：東瀬戸圏企業経営動向調査は、岡山経済研究所が昭和 55 年より毎年 4 回実施している景気アンケート調査。調査対象は、岡山県、香川県、及び広島県備後地区に事業所をもつ主要法人企業。



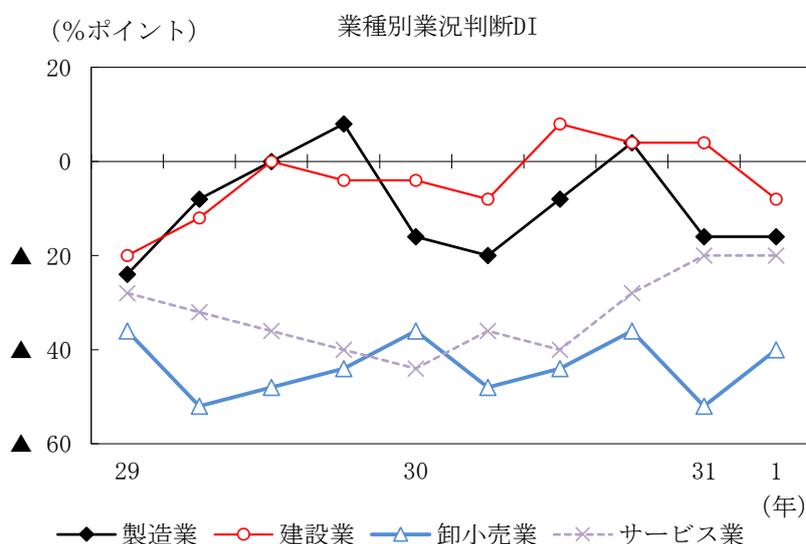
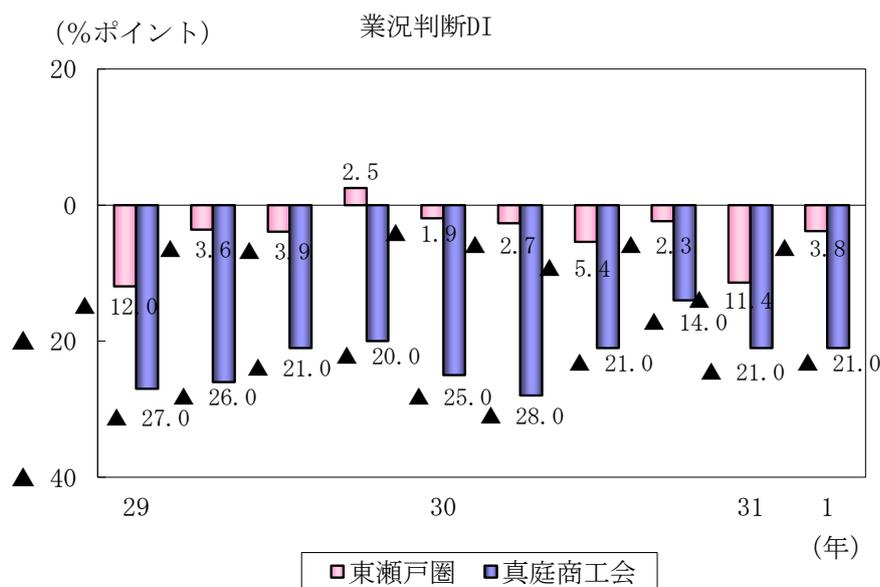
資料：内閣府、米商務省

## 2. 主なDIの一年間の推移

### a) 横ばい圏内で推移した業況判断DI

平成30年1～3月期に▲25.0であった業況判断DIは、4～6月期に▲28.0に低下したものの、31年1～3月期には▲21.0となり、DIは年度を通じて改善した。また30年10～12月期の業況判断DIは▲14.0と、26年1～3月期に次ぐ水準となる局面もあった。もっともその背景をみると、西日本豪雨の災害復旧工事需要が景況感を下支えし、その影響の剥落を見込む先行き31年4～6月期におけるDIは▲21.0と前年度並みの水準となる。これらを踏まえると、平成30年度の真庭地域の景況感は、特殊要因を除けば概ね横ばい圏内で推移したといえる。既述の復旧工事を中心とした建設需要が盛り上がった一方、生産活動は外需の振れに左右され、個人消費をはじめとする地域内需要は引き続き冴えなかつたため、双方向する両者の動きにより全体の景況感は相殺される形となった。また豪雨による風評被害から、観光需要は一時的に落ち込んだものの、年度後半に向け復調した。

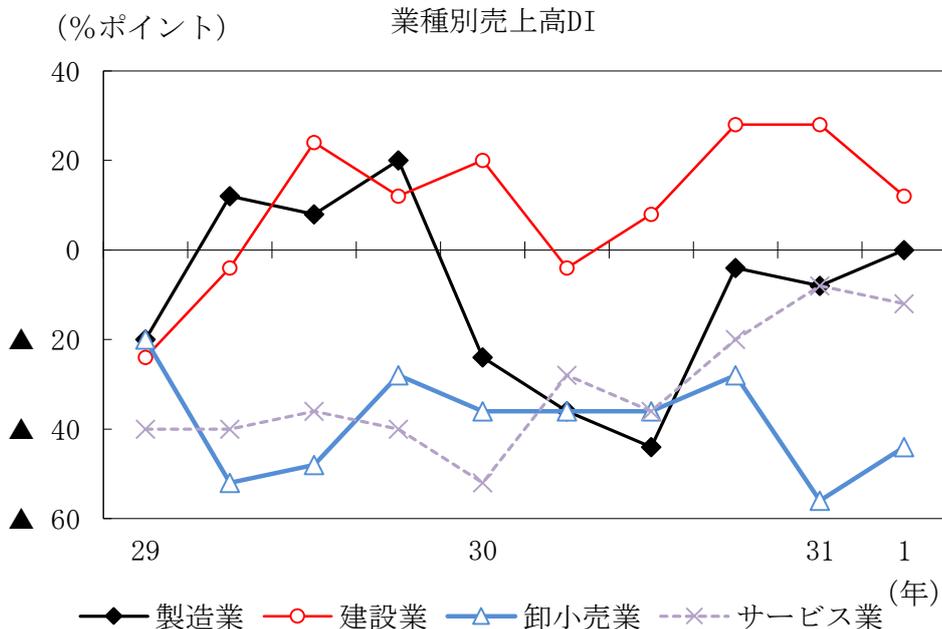
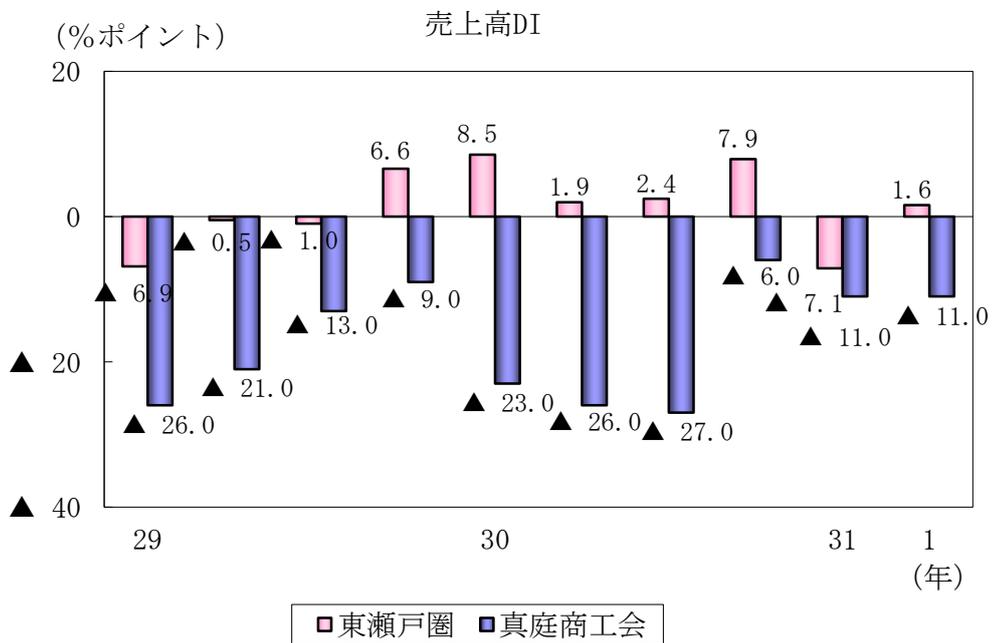
東瀬戸圏の自社業況総合判断DIと比較すると、当調査の業況判断DIとの開きは、特に7～9月期以降、前年度より縮小した。東瀬戸圏では、豪雨の影響がマイナスに作用した反面、当地域ではプラスに作用したことがその要因である。



b) 前後半で波はあるも、横ばいで推移した売上高DI

平成30年度の当調査の売上高DIは、年度前半と後半で明暗が分かれた。年度前半は豪雨災害の影響など製造業を中心に生産活動に一時的な停滞がみられた一方、後半は建設業を中心に復旧需要を取り込み、全体の売上高をけん引した。前後半で波は生じたものの、総じて横ばい推移の年度であった。もっとも、卸小売業の同DIは低調推移が続いたうえ、年度後半にはより悪化した。

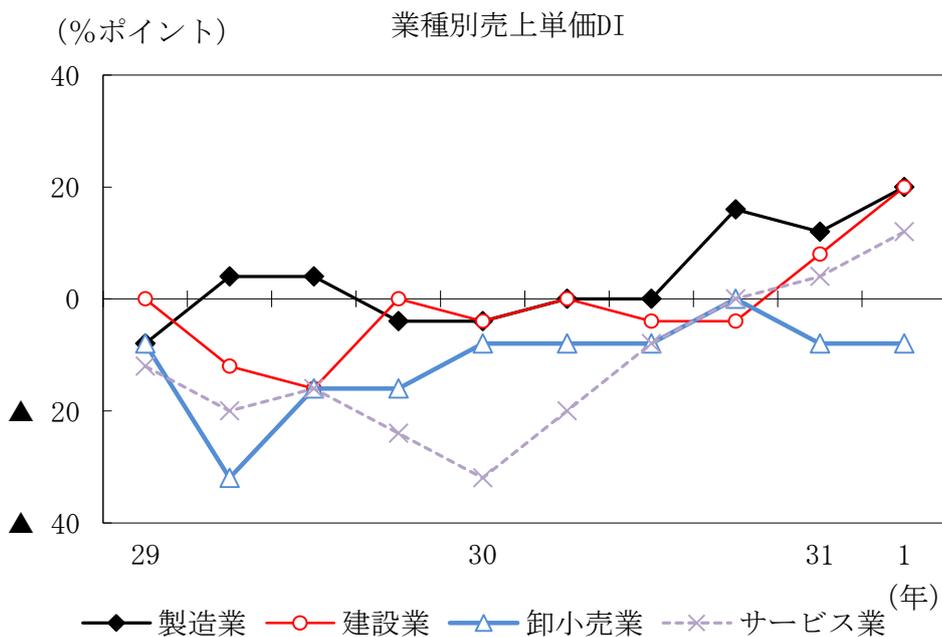
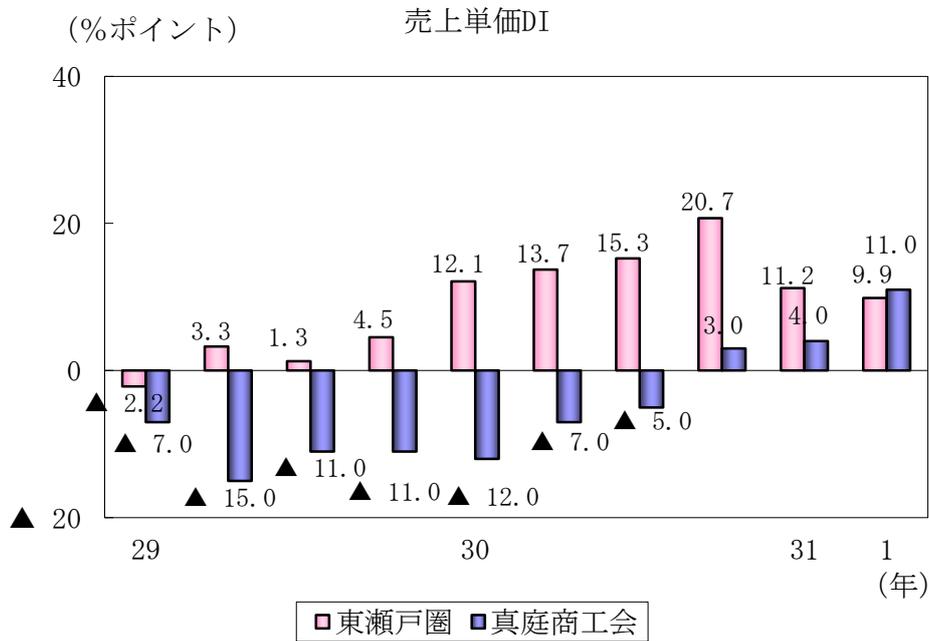
東瀬戸圏と比較すると、当地域の動きがより明確に浮かび上がる。すなわち、年度前半の当調査の同DIは、東瀬戸圏との開きが大きくなった一方、年度後半は急激に縮小している。もっとも復旧需要が一服するとみられる先行き4~6月期は、その開きが再び拡大する見込みであり、東瀬戸圏との縮小は一時的とみられる。



c) 一貫して上昇、プラス圏定着をうかがう売上単価DI

平成30年1~3月期に▲12.0であった売上単価DIは、31年1~3月期には4.0となり、年度を通じて一貫して上昇した。業種別にみると、卸小売業を除き上昇基調をたどった。10~12月期に3.0、31年1~3月期に調査開始以降最大の「上昇超」幅である4.0となったDIは、先行き4~6月期は11.0と引き続き上昇し、プラス圏に定着する見込みである。

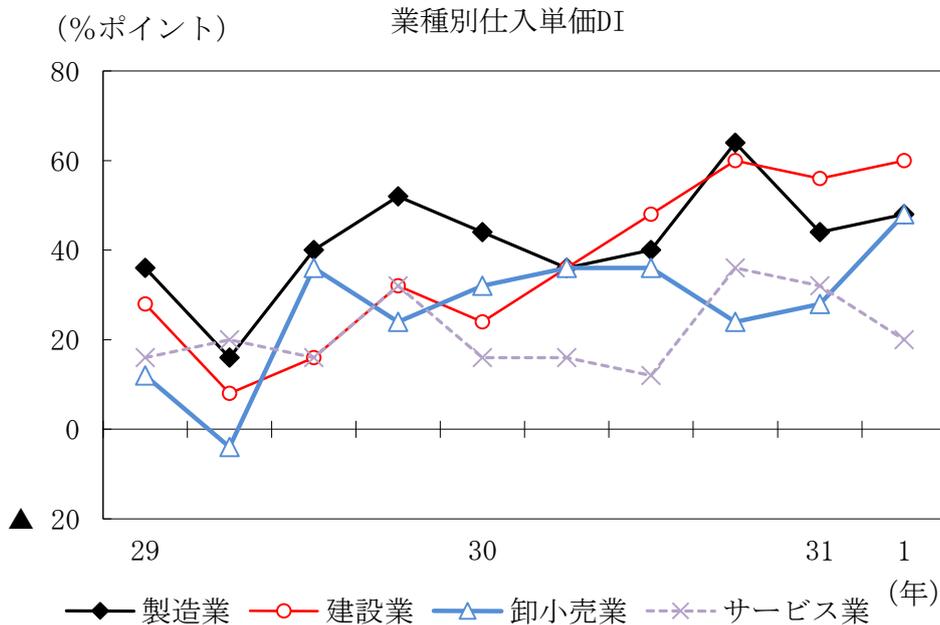
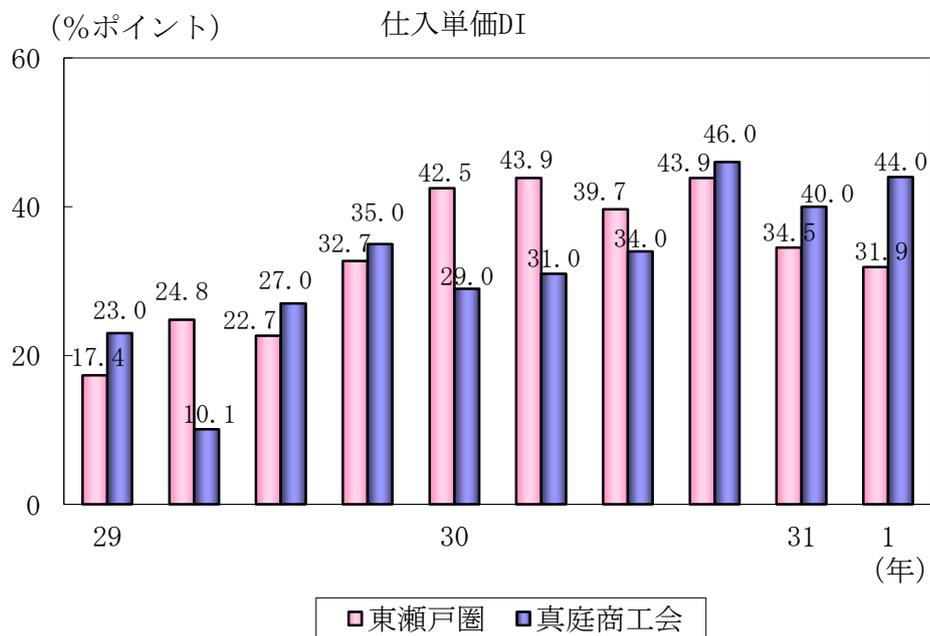
平成30年度は、当調査、東瀬戸圏調査ともに売上単価DIは上昇基調をたどった。もともと、31年1~3月期と先行き4~6月期は、東瀬戸圏の上昇は一服しているのに対し、当調査のDIは引き続き上昇基調を保っている。東瀬戸圏に比べ遅れて始まった売上単価上昇の動きは、当地域では継続している。



d) 上昇が続いた仕入単価DI

平成30年1～3月期に前期比6.0ポイント低下し29.0となった仕入単価DIは、以降一貫して上昇基調が続いた。31年1～3月期は同6.0ポイント低下の40.0と、上昇は一段落したものの、以降も高止まって推移する見込みである。業種別にみると、サービス業を除き上昇基調で推移している。

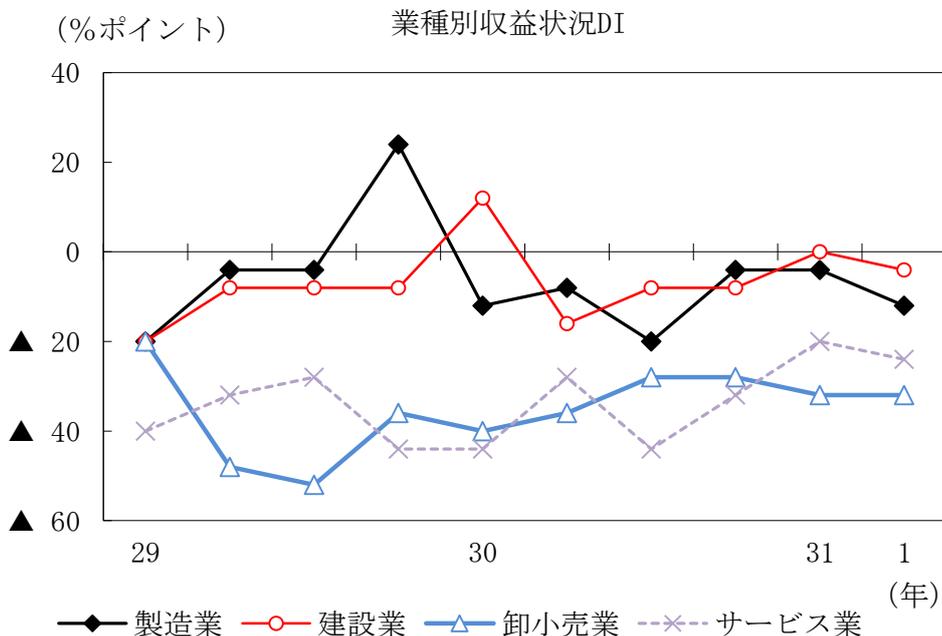
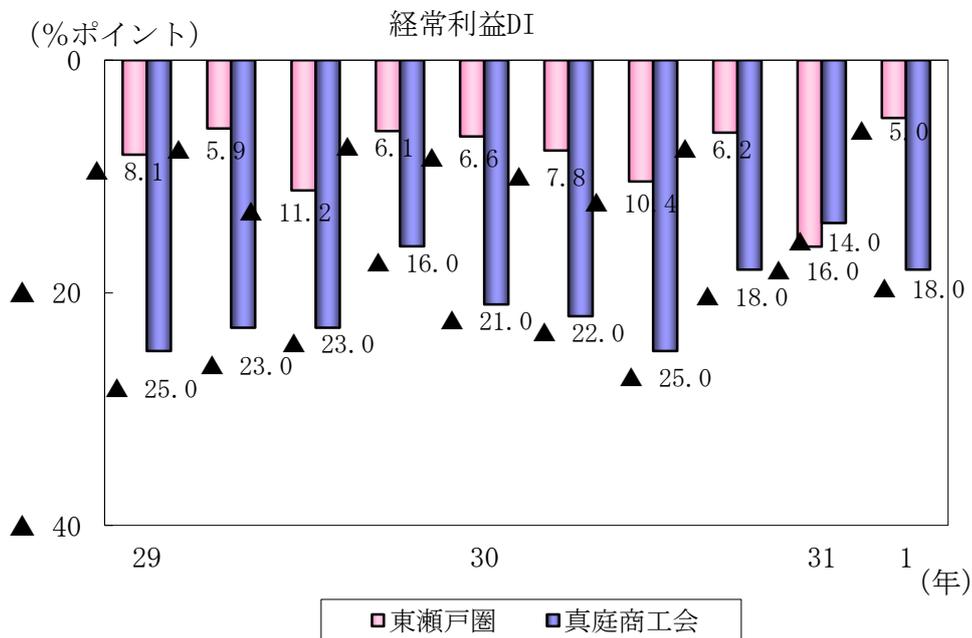
東瀬戸圏と比較すると、年度前半は東瀬戸圏の仕入単価DIが当調査のDIを上回ったが、年度後半は当調査が東瀬戸圏を上回った。先行き4～6月期も当調査のDIが東瀬戸圏を上回っており、ポイントの開きが拡大しつつある。建設業、卸小売業での上昇幅拡大が、当調査全体のDIを押し上げている。



e) 年度後半に持ち直すも、依然低調な経常利益DI

平成30年度の当調査の経常利益DIは、平成30年7～9月期に▲25.0まで低下したものの、以降▲18.0、▲14.0と2期連続で改善した。仕入価格や経費の上昇は続くものの、売上単価の改善によって、収益状況は年度後半に持ち直した。もっとも、先行き4～6月期は▲18.0と前期比4.0ポイント低下するなど、持ち直しは持続性を欠くほか、水準としては依然、低調な推移が続く見込みである。

東瀬戸圏と比較すると、平成30年度は、31年1～3月期を除き当調査の経常利益DIが下回った。東瀬戸圏のDIは悪化傾向にはあるものの、先行きは当調査と異なり改善の方向にあり、総じてみれば当調査との開きは拡大したままである。年度後半の推移傾向は東瀬戸圏より改善しているものの、その水準や方向性をみると格差は継続している。



## f) 東瀬戸圏企業経営動向調査との相違点

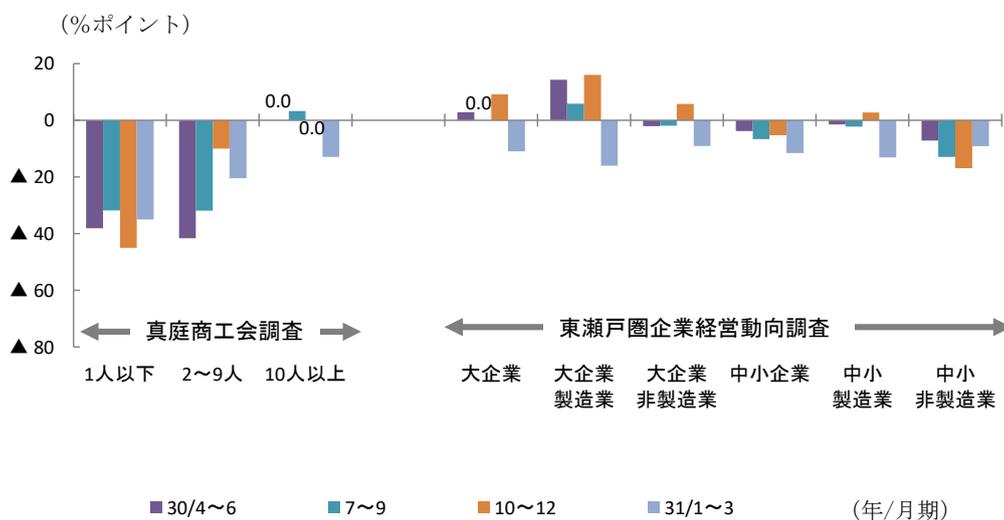
主なDIの1年間の動きをみると、東瀬戸圏と概ね同様の推移をたどったものの、豪雨の影響が総じてプラスに作用した当地域は年度後半に改善した結果、その差はやや縮小した。とはいえ、その開きは依然として大きなものがある。

まず業種別にみると、建設業は東瀬戸圏に比べ、遜色のない水準でDIは推移した。また製造業も大きな開きはなく、当調査のサービス業と東瀬戸圏の類似業種（飲食店・宿泊業、サービス業）を比較した場合でも、大きく劣るものではなかった。一方、卸小売業のDIは東瀬戸圏の卸売業、小売業に比べ大きな差が残存したままである。

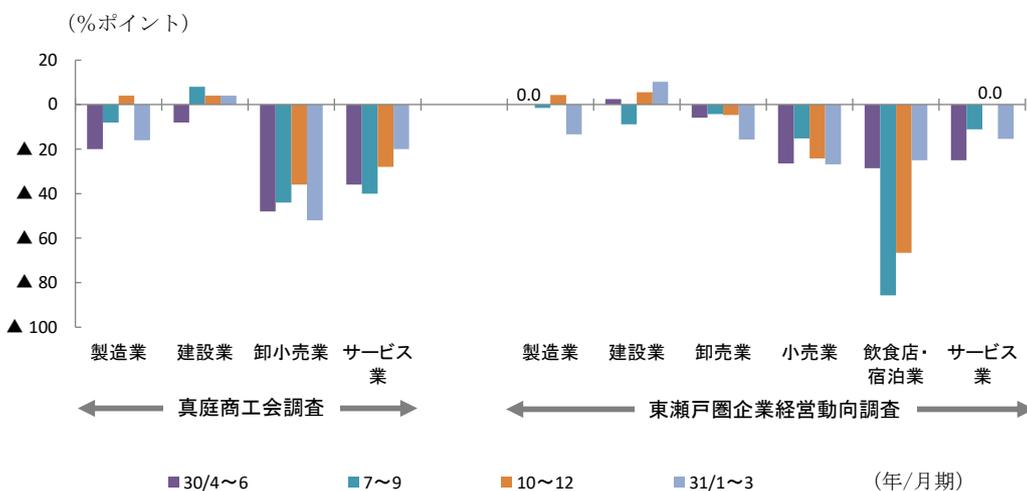
規模別にみると、10人以上規模の自社業況判断DIは、東瀬戸圏大企業DIと比べても遜色のない水準となっている一方、1人以下、2～9人規模のDIが低迷しており、特に1人以下の景況感低迷がそのまま東瀬戸圏との差につながっている。

従前から指摘しているように、地域内需要に依存する小規模零細企業者の抜本的な構造改革や支援なくしては、当地域における景況感の改善は難しい状況にある。

東瀬戸圏企業経営動向調査との比較(企業規模別、自社業況総合判断DI)



東瀬戸圏企業経営動向調査との比較(業種別、自社業況総合判断DI)



### 3. 業種別の概況

業況天気図

	全産業	製造業	建設業	卸小売業	サービス業
30/4～6	 ▲ 28.0	 ▲ 20.0	 ▲ 8.0	 ▲ 48.0	 ▲ 36.0
7～9	 ▲ 21.0	 ▲ 8.0	 8.0	 ▲ 44.0	 ▲ 40.0
10～12	 ▲ 14.0	 4.0	 4.0	 ▲ 36.0	 ▲ 28.0
31/1～3	 ▲ 21.0	 ▲ 16.0	 4.0	 ▲ 52.0	 ▲ 20.0

判定基準 業況判断 DI の水準

					
20以上	0以上 20未満	-20以上 0未満	-40以上 -20未満	-60以上 -40未満	-60未満

#### (製造業)

業況判断 DI は、豪雨災害によるサプライチェーン寸断や中国経済減速など外的要因による下振れを伴いながらも、前年度に比べ総じて横ばい圏内で推移した。先行きについては、引き続き外的要因に振り回される懸念があるほか、原材料価格などコストが高止まりする中、価格転嫁の行方をはじめとする収益動向が景況を左右するとみられる。

#### (建設業)

業況判断 DI は、災害復旧工事需要が大きな下支え要因となり、前年度に比べ改善した。もっとも、人手不足・確保難が加速していることに加え、需要の旺盛さに比べると収益改善は遅れている。先行きについては、復旧工事需要の剥落に伴い、景況感の悪化が見込まれるだけに、持続性ある受注・人材育成体制の構築への着手が望まれる。

#### (卸小売業)

BtoB ビジネスが振れを伴う中、個人消費を含む全体の業況判断 DI は、概ね横ばい圏内で推移した。もっとも、DI 水準は依然低調であり、当地域最大の課題である域内需要は下げ止まったとはいえ、弱さが続いている。先行きについては、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要が見込まれるものの、盛り上がりには欠く見通しである。

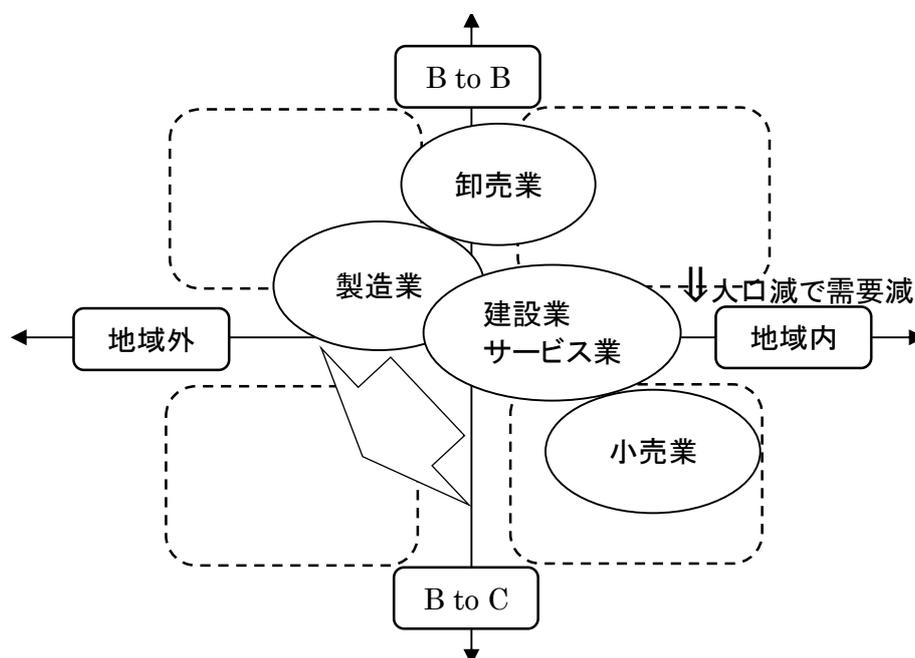
#### (サービス業)

業況判断 DI は年度を通じ、改善基調で推移した。豪雨災害の風評被害による観光需要減少はあったものの、昨年の台風による被災からの反動増もあり、概ね改善基調であった。先行きについては、観光需要の復調が一服し、域内消費も盛り上がりを欠くことから、横ばい圏内の推移が見込まれる。

#### 4. おわりに

当地の景気は、西日本豪雨の影響が総じてプラスに作用したことで、前年より改善したものの、この影響を除外すると概ね横ばい圏内の推移であった。災害復旧工事需要で堅調な建設業を除くと、当地域の景気は弱含んでおり、持続的な景況感改善の見通しは不透明である。

このような当地域の経済構造を可視化するため、需要を外需（地域外）と内需（地域内）に分け、法人向け（B to B）と個人向け（B to C）それぞれにクロスしたマトリックスに、各業種を当てはめたイメージが下の図である。まず外需（左側）をみると、当地域では外需向け産業の基盤が弱く、外需を取り込んでいる東瀬戸圏との格差につながっている。外需の獲得には、製造事業者の育成が理想的ではあるものの、まずは個々の地域企業が、地域外からの需要に応えうる財やサービスを提供できないか検討する視点が大事である。



一方、内需（右側）をみると産業的な基盤はあるものの、何より当地域においては人口減によるマーケット縮小が景況感の低迷につながっている。「内需の掘り起こし」のためにまずすべきは、他地域に流出している域内の需要を逃していないか検討することである。経済合理性が前提となるが、「地産地消」という言葉は、農産物だけでなく地域の産業すべてに意識されるキーワードであろう。もう一つはターゲットを変えてみる発想である。例えば高齢化が進む当地にあって、理美容業は「待つ」ことから、「訪問」することで利用者が増加するかもしれない。

これらを踏まえると法人向け個人向けビジネスを問わず、個々の事業者にとっては自ら提供する財・サービスの最終需要が内外需いずれにあるかを意識し、強みを伸ばすか弱みを克服するかの経営戦略を考えることがスタートとなる。当地域全体をみると、個人向けの外需が弱い構造にあることから、短所を克服する戦略ではこのカテゴリーを攻めることがひとつの解決策となる。付加価値の高い一部の製造業などに比べ、建設、卸小売、サービス業では物流費などの空間コストは大きなネックとなるものの、ITなどを活用したイノベーションによって、弱みを克服する事業者の出現に期待したい。

## 最近1年間の主な出来事

年 月	世界	日本	岡山・真庭
30 4	金正恩氏初訪韓、南北首脳が会談		瀬戸大橋、開通30周年 「真庭観光局」発足
5	英ヘンリー王子、米女優と挙式		『『桃太郎伝説』の生まれたまちおかやま〜古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語』(岡山、倉敷、総社、赤磐の4市)が日本遺産に認定
6	史上初の米朝首脳会談が開催	成人年齢を18歳に引き下げる改正民法が成立 大阪府北部で最大震度6弱の地震が発生 働き方改革関連法が成立	「SDGs未来都市」に岡山市、真庭市選定
7	洞窟に閉じ込められたタイの少年ら13人全員救出 サッカーW杯ロシア大会開催		平成30年7月豪雨、西日本を中心に甚大な被害 真庭市立中央図書館開館 アウトドアパーク「冒険の森 in ひるぜん」オープン
8			
9	インドネシアで大地震・津波、死者2000人以上	台風21号近畿地方を縦断、開空が冠水し孤立 北海道胆振地方で最大震度7の地震、道内全域で停電 自民党総裁選、安倍首相が連続3選	
10	トルコの総領事館でサウジ人記者殺害 ノーベル生理学・医学賞に本庶佑氏		卓球「Tリーグ」発足、岡山リベッツ参戦 岡山県人口190万人割れ
11	米中間選挙、下院は民主党多数でねじれ議会に	日産・ゴーン会長を逮捕	
12		新在留資格を創設する改正入管法が成立	
31 1			
2	米朝首脳会談、ベトナムで開催	はやぶさ2「りゅうぐう」着陸成功	県道新見勝山線「月田本トンネル(仮)」貫通
3	ニュージーランドのモスクで銃乱射		三菱自動車、水島製作所で生産する新型軽を発売 笹尾充氏に「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」地方創生賞